meeting of the Association for the Scientific Study of Consciousness (ASSC), the Social Neuroscience Satellite. June 9-12, 2011, Kyoto, Japan

船山道隆、中川良尚、佐野洋子、加藤元一郎、三村將：強制的に右手が左手をかばう動作が出現した重度失行の1例、第35回日本神経心理学会総会　2011年9月15・16日、宇都宮

加藤隆、加藤元一郎、三村將：嫌悪対象把持に関連するミラーニューロンシステム応答－MEGを用いた検討、第35回日本高次脳機能障害学会学術総会　2011年11月11・12日、鹿児島

藤永直美、奥平奈保子、武原格、加藤元一郎：パントマイム動作が可能な道具の意味記憶障害を呈した一例、第35回日本高次脳機能障害学会学術総会　2011年11月11・12日、鹿児島

秋山知子、三村將、加藤元一郎：両側後頭～前頭葉の背側に脳形態異常があり視空間性および社会性の障害を主症状とする症例、第35回日本高次脳機能障害学会学術総会　2011年11月11・12日、鹿児島

江口洋子、穴水幸子、斎藤文恵、秋山知子、加藤元一郎：視覚性遠隔記憶検査の作製にかかわる方法論の確立－social memoryにおけるeventとfaceの側面－、第35回日本高次脳機能障害学会学術総会　2011年11月11・12日、鹿児島

陳韻如、小西海香、斎藤文恵、秋山知子、加藤元一郎：視聴覚同期（audiovisual synchrony）の注意誘導効果への影響、第35回日本高次脳機能障害学会学術総会　2011年11月11・12日、鹿児島

H．知的財産権の出願・登録状況

特になし。

II-5 分担研究報告書

精神疾患の病態診断と治療評価のための
イメージングバイオマーカーの開発と臨床応用

舘野　周

日本医科大学　精神医学教室

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）

分担研究報告

精神疾患の病態診断と治療評価のためのイメージングバイオマーカーの開発と臨床応用

分担研究者　舘野　周　日本医科大学精神医学教室　講師

研究要旨

脳の特定の部位に β アミロイドが沈着する事が、アルツハイマー病の発症・進行に大きく影響する事から、我々はアミロイド分子イメージングとして[^{18}F]florbetapir を用いてアルツハイマー型認知症患者、健常者、アルツハイマー病のハイリスクである軽度認知機能障害者に実施することで、アルツハイマー病の病態診断と治療評価についての有用性を検討した。また臨床で認知症診断に用いられている検査も実施し、アミロイド PET との関連を検討した。

アルツハイマー型認知症群 14 名におけるアミロイド陽性率は 85.7%であった。一方で軽度認知機能障害群では陽性率 39.1%、健常者群では陽性率は 8.3%であった。軽度認知機能障害およびアルツハイマー型認知症におけるβアミロイド沈着が陽性かどうかに対する感度、特異度は Mini-Mental State Examination（57.1%と 58.8%）、Alzheimer's Disease Assessment Scale-cognitive component 日本語版（76.2%と 47.1%）、および MRI による海馬萎縮（50.0%と 73.3%）であった。この事から、[^{18}F]florbetapir を用いたあアミロイド分子イメージングの手法はアルツハイマー型認知症の鑑別に有効である可能性が示された。

A. 研究目的

アルツハイマー病の原因は、完全には解明されていないが、神経病理学的所見から、脳の特定部位にβアミロイドが沈着する事が、発症・進行に大きく影響する事が明らかになってきている。また軽度認知機能障害などがアルツハイマー病のハイリスクと考えられており、治療などの臨床的見地からアルツハイマー病は早期発見が望ましいものの、現在の臨床診断は脳形態画像、症状、経過などから疑い診断に止まり、病態に基づいた確定診断は生体では行えていない。近年、分子イメージングの手法を用いる事で生体内でβアミロイドの存在の確認や評価が出来るとする報告がなされ、臨床利用に向けた研究と開発がされている。そこでわれわれは、AVID社が開発したアミロイド分子イメージングのための検査薬[^{18}F]florbetapirを導入し、アルツハイマー病を含む認知症患者群、健常者群、アルツハイマー病のハイリスク群である軽度認知機能障害群を対象に、アミロイド分子イメージングを実施し、有用性を検討した。

B. 研究方法

薬物試験審査委員会の承認を得たのち、本実験の内容を口頭で説明し、文書により同意の得られた健常者群ならびに軽度認知機能障害群では本人、アルツハイマー病を含む認知症患者群については、本人ならびに代諾者の同意を得られたものを対象とした。認知症の診断は国際疾病分類第10版に基づいた。アルツハイマー病の診断にはNINCDS-ADRDAのprobableADの臨床診断基準を用いた。ICD-10被験者は認知症の状態評価のためのミニメンタルステート検査（MMSE）、アルツハイマー病評価尺度（ADAS-Jcog）、周辺症状評価のためのNeuropsychiatric Inventory（NPI）、老年期うつ病評価尺度（GDS）、日常生活能力評価のための臨床認知症評価法（CDR）を実施した。脳器質性病変の鑑別、解析用の脳形態情報を得るために臨床用PHILIPS社製1.5テスラMRI装置Intera 1.5T Achieve Novaを用いて撮像した。[^{18}F]florbetapirを静脈内に注射し、注射後50分から10分間のPET画像を島津製作所製Eminence SET-3000GCT/Xを用いて撮像した。データの解析にはPMOD 3.1 (PMOD Technologies Ltd., Zurich, Switzerland）を使用した。

MMSEおよびADAS-Jcogの有意な低下としてのcut-off値はそれぞれ23点と10点とした。

βアミロイド沈着の評価には、脳剖検の知見を踏まえてFleisherらにより提唱されている定量化手法を用いた。これは標準脳ならびに統計処理ソフトを用いる事で、前頭葉眼窩野、側頭葉、前部および後部帯状回、頭頂葉ならびに楔前部の領域における集積を皮質ー全小脳比による standard uptake value ratio によりβアミロイド沈着を自動的に数値化するものである。この数字を脳剖検の結果から、アミロイド陰性(SUVRs≤1.08)、アルツハイマー病の病理呈

するレベル(SUVRs≥1.17)と 2 つの cut-off 値を示している。今回我々は、SUVRs>1.08 をアミロイド陽性として用いた。

MRI も同様に標準脳ならびに統計処理ソフトを用いる事で海馬における萎縮の程度を z-score に数値化した。z-score≥2 を有意な海馬萎縮とした。

（倫理面への配慮）

本研究は、ヘルシンキ宣言に基づき倫理面について十分な配慮の上で倫理委員会で承認された説明文書、同意書を用いて文書による説明と同意を得たうえで実施された。本研究で得られたデータは匿名化し、解析を行った。

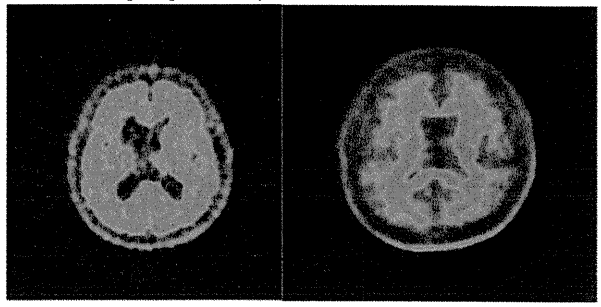
C. 研究結果

健常対照群 12 名、アルツハイマー型認知症患者群 14 名、軽度認知機能障害群 23 名に対して[^{18}F]florbetapir を用いたアミロイド分子イメージングを実施した。平均年齢、男女比、症状評価ならびに β アミロイド陽性率については以下に示す通りである。

	アルツハイマー型認知症群	軽度認知機能障害群	健常群
N	14	23	12
平均年齢	75.9±7.0	74.3±8.3	69.8±3.4
男女比	3:11	7:16	7:05
MMSE	18.1±4.6	25.0±3.2	29.0±1.1
ADAS-Jcog	21.6±11.6	9.6±4.5	4.1±2.4
NPI	10.5±11.7	11.3±16.1	1.0±1.6
CDR	1.4±0.7	0.5±0.2	0.0±0.0
MRI	2.9±1.0	1.4±0.8	1.4±1.5
PET	1．19±0.11	1.03±0.14	0.99±0.09
B アミロイド陽性	12(85.7%)	9(39.1%)	1(8.3%)

実際の[^{18}F]florbetapir の画像を下に示す。

[^{18}F]florbetapirによるPET画像



amyloid (+)　　amyloid (-)

軽度認知機能障害およびアルツハイマー型認知症におけるβアミロイド沈着が陽性かどうかに対する感度、特異度は Mini-Mental State Examination（57.1%と 58.8%）、Alzheimer's Disease Assessment Scale-cognitive component 日本語版（76.2%と 47.1%）、および MRI による海馬萎縮（50.0%と 73.3%）であった。

	βアミロイド陽性	βアミロイド陰性
N	21	16
MMSE		
陽性（23 点以下）	12	7
陰性(24 点以上)	9	9
ADAS-Jcog		
陽性（10 点以上）	16	9
陰性(10 点未満)	5	7
MRI		
陽性(z-score 2 以上)	9	4
陰性（z-score 2 未満）	9	10

D．考察

今回、我々はアルツハイマー型認知症、その他の認知症、アルツハイマー型認知症のハイリスク群、健常者を対象にアルツハイマー病の診断におけるアミロイド分子イメージングの有用性を検討した。

少数例での結果ではあるが、[^{18}F]florbetapir を用いた PET 検査では、アルツハイマー病の臨床診断とアミロイド陽性の一致率は 85.7%であり、健常者における

陽性率が 8.3%であった事から、アルツハイマー型認知症の診断に有用である可能性が示された。海外での研究では、アルツハイマー型認知症患者に対して行われたアミロイド分子イメージングでのアミロイド陽性率は 80 から 90%とされており、我々の結果と同等である。これは、我々の症例が少数である事が大きな要因であると考える。このことから[^{18}F]florbetapir を用いたβアミロイドの判定が、日本においても有用であり人種を問わずに有効である事が示せたと考える。また認知機能検査や MRI による萎縮の程度の結果などから、認知症と軽度認知機能障害の鑑別においては[^{18}F]florbetapir を用いた PET 検査はより有用であると考えられた。集積の程度を示す SUVR 値が海外の報告に比べると低めとなっている。これは対象者の違いを反映している可能性や収集条件の違いを反映しているかも知れない。これらの点に関して、今後より多くの症例を対象とすることで検討していきたいと考える。

E.結論

本研究により、アルツハイマー病の診断と[^{18}F]florbetapir を用いたアミロイド分子イメージングによるアミロイド陽性が高い割合で一致する事が示された。アルツハイマー病のハイリスク群においても陽性者がいた事から、長期的な予後追跡によるアルツハイマー病への移行についての検討も必要と考えられる。今後は症例数を増やす事でハイリスク群やその他の認知症群の下位分類を行い、より詳細な鑑別診断やハイリスク評価ならびに治療による変化などを検討する事が重要であると考えられた。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

１．論文発表

なし

２．学会発表

なし

知的財産権の出願・登録状況

III 研究成果の刊行に関する一覧表

別紙４

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍
別紙４

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
松浦雅人	デジタル臨床脳波学	末永和栄、松浦雅人	デジタル臨床脳波学	医歯薬出版	東京	2011	1-156
松浦雅人	神経生理学的検査	山内俊雄ほか	専門医をめざす人の精神医学	医学書院	東京	2011	210-217
松浦雅人	神経系の基礎	彼末一之、能勢博	やさしい生理学	南光堂	東京	2011	207-222
松浦雅人	気分障害・感情障害と睡眠	野沢胤美	睡眠医学アトラス	真興交易医書出版	東京	2012	190-194
松浦雅人	神経・運動器疾患の検査	矢冨裕	臨床検査医学総論	医学書院	東京	2012	143-160
松浦雅人	発作間欠期精神症状	樋口輝彦ほか	今日の精神疾患治療指針	医学書院	東京	2012	590-593
加藤元一郎	器質性精神障害（前頭葉システム障害を含む）	山口徹 北原光夫 福井次矢	今日の治療指針	医学書院	東京	2011	851-852
加藤元一郎	神経心理学的検査法	永井良三総監修	精神科研修ノート	診断と治療社	東京	2011	143-146
加藤元一郎	高次脳機能障害	日本産業精神保健学会編集	職場のメンタルヘルスケア	南山堂	東京	2011	168-173

加藤元一郎	発達障害における認知機能障害	松下正明総編集	精神医学キーワード事典	中山書店	東京	2011	7-8
加藤元一郎	成人期の広汎性発達障害－生物学的研究から	青木省三、村上伸治編集	専門医のための精神科臨床リュミエール23	中山書店	東京	2011	46-63

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ueda S, Sakayori T, Yamaoka N, Okubo Y. therapy for depression,	Successful switching from sine-wave to pulse-wave with oral theophylline the night before electroconvulsive	Psychiatry and Clinical Neurosciences,	65	604-605	22011
Takahashi H, Yamada M, Kodaka F, Suhara T	Functional significance of central D1 receptors in cognition: beyond working memory	J Cereb Blood Flow Metab	Epub ahead of print	Epub ahead of print	2012
Kobayashi K, Haneda E, Higuchi M, Suhara T, Suzuki H	Chronic fluoxetine selectively upregulates dopamine D1-like receptors in the hippocampus	Neuropsychopharmacology	37	1500-1508	2012
Takahata K, Ito H, Takano H, Arakawa R, Fujiwara H, Kimura Y, Kodaka F, Sasaki T, Nogami T, Suzuki M, Nagashima T, Shimada H, Kato M, Mimura M, Suhara T	Striatal and extrastriatal dopamine D2 receptor occupancy by the partial agonist antipsychotic drug aripiprazole in the human brain: a positron emission tomography study with [^{11}C]raclopride and [^{11}C]FLB457	Psychopharmacology	Epub ahead of print	Epub ahead of print	2012
Takahashi H, Fujie S, Camerer C, Arakawa R, Takano H, Kodaka F, Matsui H, Ideno T, Okubo S, Takemura K, Yamada M, Eguchi Y, Murai T, Okubo Y, Kato M, Ito H, Suhara T	Norepinephrine in the brain is associated with aversion to financial loss	Molecular Psychiatry	Epub ahead of print	Epub ahead of print	2012
Ohya T, Okumura T, Nagai Y, Fukushi K, Irie T, Suhara T, Zhang M, Fukumura T, Kikuchi T	Effect of radiolabeled metabolite elimination from the brain on the accuracy of cerebral enzyme activity estimation using positron emission tomography with substrate tracers	NeuroImage	56(3)	1105-1110	2011

Kodaka F, Ito H, Takano H, Takahashi H, Arakawa R, Miyoshi M, Okumura M, Otsuka T, Nakayama K, Halldin C, Farde L, Suhara T	Effect of risperidone on high-affinity state of dopamine D_2 receptors: a PET study with agonist ligand [^{11}C](R)-2-CH_3O-N-n-propylnorapomorphine	Int J Neuropsychopharmacol	14	83-89	2011
Takano H, Ito H, Takahashi H, Arakawa R, Okumura M, Kodaka F, Otsuka T, Kato M, Suhara T	Serotonergic neurotransmission in the living human brain: A positron emission tomography study using [^{11}C]DASB and [^{11}C]WAY100635 in young	Synapse	65	624-633	2011
Ito H, Kodaka F, Takahashi H, Takano H, Arakawa R, Shimada H, Suhara T	Relation between presynaptic and postsynaptic dopaminergic functions measured by positron emission tomography:	J Neurosci	31	7886-7890	2011
Adachi N, Onuma T, Kato M, Ito M, Akanuma N, Hara T, Oana Y, Okubo Y, Matsuura M	Analogy between psychosis antedating epilepsy and epilepsy antedating psychosis	Epilepsia	52	1239-1244	2011
Miyajima M, Ohta K, Hara K, Iino H, Maehara T, Hara M, Matsuura M, Matsushima E	Abnormal mismatch negativity for pure-tone sounds in temporal lobe epilepsy	Epilepsy Res	94	149-157	2011
Marutani T, Yahata N, Ikeda Y, Ito T, Yamamoto M, Matsuura M, Matsushima E, Okubo Y, Suzuki H, Matsuda T	An fMRI study of the effects of acute single administration of paroxetine on motivation related brain activity	Psychiatry Clin Neurosci	65	191-198	2011
Sasai T, Inoue Y, Masuo M, Matsuura M, Matsushima E	Changes in respiratory disorder parameters during the night in OSA	Respiology	16	116-123	2011
Sasai T, Inoue Y, Matsuura M	Clinical significance of periodic leg movements during sleep in rapid eye movement sleep behavior disorder	Clinical Neuroscience	29	66-70	2011
Hara K, Ohta K, Miyajima M, Hara M, Iino H, Matsuda A, Watanabe S, Matsushima E,	Mismatch negativity for speech sounds in temporal lobe epilepsy	Epilepsy Behav	23	335-341	2012

Sasai T, Inoue Y, Matsuura M	Effectiveness of pramipexole, a dopamine agonist, on rapid eye movement sleep behavior disorder	Tohoku J Exp Med	226	177-181	2012
Harumasa Takano, Hiroshi Ito, Hidehiko Takahashi, Ryosuke Arakawa, Masaki Okumura, Fumitoshi Kodakal, Tatsui Otsukal, Motoichiro Kato, Tetsuya Suhara	Serotonergic neurotransmission in the living human brain: A positron emission tomography study using [11C]DASB and [11C]WAY100635 in young healthy men	Synapse	65	624-633	2011
Satoshi Umeda, Yoshiko Kurosaki, YuriTerasawa, Motoichiro Kato,	Deficits in prospective memory following damage to the prefrontal cortex	Neuropsychologia	49	2178-2184	2011
Toshiyuki Kurihara, Motoichiro Kato, Robert Reverger, Gusti Rai	Seventeen-year clinical outcome of schizophrenia in Bali	European Psychiatry	26	333-338	2011
Toshiyuki Kurihara, Motoichiro Kato, Robert Reverger, I Gusti Rai Tirta	Remission in schizophrenia: A community-based 6-year follow-up study in Bali.	Psychiatry and Clinical Neuroscience	65	476-482	2011
Yutaka Kato, Taro Muramatsu, Motoichiro Kato, Yoshiyuki Shibukawa, Masuro Shintani, Masaru Mimura	Magnetoencephalography study of right parietal lobe dysfunction of the evoked mirror neuron system in antipsychotic-free schizophrenia	PLoS ONE	6(11)	e28087. doi:10.1371/journal.pone.0028087	2011
Keisuke Takahata, Hiroshi Ito, Harumasa Takano, Ryosuke Arakawa, Hironobu Fujiwara, Yasuyuki Kimura, Fumitoshi Kodak, Takeshi Sasaki, Tsuyoshi Nogami, Masayuki Suzuki, Tomohisa Nagashima, Takaaki Mor, Hitoshi Shimada, Motoichiro Kato, Masaru Mimura, Tetsuya Suhara	Striatal and extrastriatal dopamine D_2 receptor occupancy by the partial agonist antipsychotic drug aripiprazole in the human brain: a positron emission tomography study with [^{11}C]raclopride and [^{11}C]FLB457	Psychopharmacology		Epub ahead of print, 2012, DOI 10.1007/s00213-011-2633-5	2012

Takahashi H, Fujie S, Camerer C, Arakawa R, Takano H, Kodaka F, Matsui H, Ideno T, Okubo S, Takemura K, Yamada M, Eguchi Y, Murai T, Okubo Y, Kato M, Ito H, Suhara T	Norepinephrine in the brain is associated with aversion to financial loss	Molecular Psychiatry		Epub ahead of print, 2012, doi:10.1038/mp.	2012
Takaki Maeda, Motoichiro Kato, Taro Muramatsu, Satoru Iwashita, Masaru Mimura, Haruo Kashima	Aberrant sense of agency in patients with schizophrenia: forward and backward over-attribution of temporal causality during intentional action	Psychiatry Research		Epub ahead of print	2012
Hidehiko Takahash, Harumasa Takano, Colin Camerer, Takashi Ideno, Shigetaka Okubo, Hiroshi Matsui, Kazuhisa Takemura, Ryosuke Arakawa, Fumitoshi Kodaka, Makiko Yamada, Yoko	Honesty mediates the relationship between serotonin and reaction to unfairness	Proc Natl Acad Sci U S A	109 (11)	4281-4	2012
H Takahashi, T Sassa, T Shibuya, M Kato, M Koeda, T Murai, M Matsuura, K Asai, T Suhara and Y Okubo	Effects of sports participation on psychiatric symptoms and brain activations during sports observation in schizophrenia	Translational Psychiatry	2	e96, doi:10.1038/tp.2012.22	2012
Makiko Yamada, Colin Camerer, Saori Fujie, Motoichiro Kato, Tetsuya Matsuda, Harumasa Takano, Hiroshi Ito, Tetsuya Suhara, Hidehiko Takahashi	Neural circuits in the brain that are activated when mitigating criminal sentences	Nature Communications		3:759 doi: 10.1038/ncomms1757	2012
大久保善朗	この40年と精神医学. カテゴリーモデルからディメンジョンモデルへ	臨床精神医学	40	1631-1634	2012
大久保善朗	分子イメージングによる抗精神病薬の評価	精神科治療学	26	1449-1455	2011
大久保善朗	画像診断のより上手な使い方 幻覚妄想の分子イメージング 統合失調症とパーキンソン病の精神病症状	Frontiers in Parkinson Disease,	4	208-211	2012

館野周,大久保善朗	[^{18}F]AV-45によるアミロイドイメージング”， 日本臨牀増刊号， 認知症学（前）—その解明と治療の最新知見—	日本臨牀増刊号,	1008	561-564	2011
大久保善朗	【パリペリドン徐放錠の基礎と臨床】 PET所見を中心にしたパリペリドン徐放錠の薬理学的考察.	精神科	19(2)	152-159	2011
成重竜一郎，川島義高，齊藤卓弥，大久保善朗	児童・青年期の自殺未遂者の原因・動機に関する検討	児童青年精神医学とその近接領域	53(1)	46-53	2012
上田諭，肥田道彦，大久保善朗	H2ブロッカーlafutidineによる薬剤誘発性せん妄 癌術後の3症例.	臨床精神医学	40(10)	1359-1363	2011
上田諭，大久保善朗	Kitwoodの公式」の有用性 対人心理要因への介入でBPSDが著明に改善したAD症例	精神医学	53(9)	907-913	2011
上田諭，小山恵子，古茶大樹，大久保善朗	遅発緊張病の症状群を伴うレビー小体型認知症 いかに症例を理解し治療するか	精神神経学雑誌	113(2)	144-156	2011
小川耕平，米沢宏，大久保善朗	地域に埋もれる社交不安障害患者	病院・地域精神医学	54(1)	39-41	2011
金禹さん，大久保善朗	オーバートレーニング症候群とうつ病	臨床精神医学	40(9)	1171-1178	2011
宮本聖也，熊田貴之，大久保善朗，平安良雄.	今日の統合失調症薬物治療におけるblonanserinの位置付け 神奈川県下におけるアンケート調査の結果より	臨床精神薬理	14(7)	1257-1267	2011
一瀬邦弘，鮫島達夫，粟田主一，奥村正紀,鹿島晴雄,本橋伸高,澤温,和田健,分島徹,川嵜弘詔,山口成良,大久保善朗	わが国の電気けいれん療法(ECT)の現況 ECT検討委員会の全国実態調査から	精神神経学雑誌	113(9)	939-951	2011
加藤元一郎	前頭葉機能障害のしくみについて	神経心理学	27	195-204	2011
加藤元一郎	前頭前野と記憶障害	高次脳機能研究	31	311-318	2011

加藤元一郎	作動記憶	日本臨床 認知症学　上	増刊	337-340	2011
加藤元一郎	失見当識	日本臨床 認知症学　上	増刊	341-345	2011

Ⅳ. 研究成果の刊行物・別刷

Epilepsia, 52(7):1239–1244, 2011
doi: 10.1111/j.1528-1167.2011.03039.x

FULL-LENGTH ORIGINAL RESEARCH

Analogy between psychosis antedating epilepsy and epilepsy antedating psychosis

*†Naoto Adachi, †Teiichi Onuma, †Masaaki Kato, †Masumi Ito, †Nozomi Akanuma, ‡Tsunekatsu Hara, §Yasunori Oana, ¶Yoshiro Okubo, and **Masato Matsuura

*Adachi Mental Clinic, Sapporo, Japan; †National Centre Hospital for Mental, Nervous and Muscular Disorders, Kodaira, Japan; ‡Komagino Hospital, Hachioji, Japan; §Department of Neuropsychiatry, School of Medicine, Tokyo Medical University, Tokyo, Japan; ¶Department of Neuropsychiatry, School of Medicine, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan; and **Department of Neuropsychiatry, Nihon University School of Medicine, Tokyo, Japan

Summary

Purpose: **Patients with recurrent epileptic seizures after the development of psychosis (Psychosis-Epilepsy) have been regarded as belonging to a different clinical entity from those with epilepsy antedating the development of psychosis (Epilepsy-Psychosis). However, clinical characteristics of patients with Psychosis-Epilepsy have not been well described, except for early German studies. We aimed to estimate the reliability of distinction between Psychosis-Epilepsy and Epilepsy-Psychosis by comparing their clinical characteristics.**

Methods: **Among 312 patients with epilepsy and psychosis enrolled in this multicenter study, 23 patients had Psychosis-Epilepsy and 289 patients had Epilepsy-Psychosis (i.e., interictal psychosis). Demographic (i.e., sex, age at time of evaluation, and intellectual functioning), psychiatric (i.e., age at onset of psychosis, subtype of psychosis, duration of psychotic episode, and a family history of psychosis), and epileptic (i.e., age at onset of epilepsy, subtype of epilepsy, seizure type, and a family history of epilepsy) characteristics of both groups were compared.**

Key Findings: **Clinical characteristics, either in their psychoses or epilepsies, except for age-related variables, were equivalent between patients with Psychosis-Epilepsy and those with Epilepsy-Psychosis. Time intervals between onset of psychosis and that of epilepsy in the two groups showed a normal distribution curve.**

Significance: **The presence of many common features and the linear distribution of the time intervals did not fully support that Psychosis-Epilepsy and Epilepsy-Psychosis were two distinctly different entities. Among certain patients who have genetic vulnerabilities to both psychoses and seizures, psychosis may develop either antedating or postdating the development of epilepsy. These findings may suggest a necessary reconceptualization of psychoses in epilepsy.**

KEY WORDS: **Psychosis, Epilepsy, Epilepsy psychosis, Organic psychosis, Classification of mental disorders in epilepsy.**

Comorbidity of psychoses has been described frequently in patients with epilepsy. Psychoses unrelated to ictal events can be classified according to the timing of the development of epilepsy (World Health Organization, 1992). Psychoses antedating recurrent epileptic seizures (Psychosis-Epilepsy) are generally regarded as functional psychosis (e.g., schizophrenia) and other psychoses after recurrent seizures (Epilepsy-Psychosis) are categorized as organic psychosis. Slater (1969) established the modern concept of "epileptic psychosis," in which chronic paranoid psychosis came on after years of epileptic fits. His concepts, similar to Epilepsy-Psychosis, were mainly based on three findings: (1) psychopathologies different from those commonly seen in patients with schizophrenia; (2) genetic predisposition of psychosis equivalent to that in the general population; and (3) occurrence of psychosis following the onset of psychosis with a mean interval of 14 years. In recent literature, Epilepsy-Psychosis has been vigorously studied as a condition likely associated with epilepsy-related processes (Trimble & Schmitz, 1997), whereas Psychosis-Epilepsy was often regarded as a consequence of iatrogenic factors such as side effects from antipsychotic drugs (APDs) (Itil & Soldatos, 1980; Hedges et al., 2003) or mere coincidence of the two conditions despite a comparatively high prevalence of spontaneous seizures in patients with schizophrenia in the period prior to the development of modern APDs (Esser, 1938; Yde et al., 1941). Interestingly, little attention has been paid to classical studies in that psychosis antedating epilepsy was

Accepted January 24, 2011; Early View publication March 31, 2011.
Address correspondence to Naoto Adachi, MD, Adachi Mental Clinic, Kitano 7-5-12, Kiyota, Sapporo 004-0867, Japan. E-mail: adacchan@tky2.3web.ne.jp

considered as a variant of epilepsy-related psychoses (so called epilepsy psychoses) (Krapf, 1928; Glaus, 1931; Gruhle, 1935). Recent large studies have shown that not only epileptic factors but also nonepileptic factors are associated with the development of "Epilepsy-Psychosis" (Adachi et al., 2002; Qin et al., 2005; Adachi et al., 2010). In contrast, clinical features of Psychosis-Epilepsy, in particular its epilepsy-related phenomena, are not well characterized. This has raised a question as to the rationale of the dichotomy of psychoses in epilepsy patients according to the timing of the development of epilepsy. In the current study, we investigated clinical characteristics of patients with psychosis antedating epilepsy (Psychosis-Epilepsy) and those with epilepsy antedating psychosis (Epilepsy-Psychosis).

Methods

Subjects

Three hundred twelve patients with both epilepsy and psychosis unrelated to ictal symptoms (interictal) were consecutively registered for the study in December 2000, from a collaborative database specially designed for epilepsy and psychosis of five institutions in Tokyo with adult epilepsy clinics: the National Center Hospital for Mental, Nervous, and Muscular Disorders; Nihon University Hospital; Tokyo Medical University Hospital; Tokyo Medical and Dental University Hospital; and Komagino Hospital (Adachi et al., 2000, 2002, 2008, 2010). There were 23 patients who developed recurrent epileptic seizures after the development of psychosis (Psychosis-Epilepsy); a full set of data was available for 21 patients and some pieces of data were missing in two patients. Two hundred eighty-nine patients developed interictal psychosis after the development of epilepsy (Epilepsy-Psychosis). Psychosis was defined as the presence of hallucinations, delusions, or a limited number of severe abnormalities of behavior in accordance with the International Classification of Diseases (ICD10) (World Health Organization, 1992). Patients with a history of postictal psychotic episodes (i.e., postictal psychosis or bimodal psychosis where interictal and postictal psychoses occurred independently) (Adachi et al., 2000, 2002, 2008, 2010) were excluded. All the patients met diagnostic criteria for the International Epilepsy Classifications (Commission on Classification and Terminology of the International League Against Epilepsy, 1989). Other seizure-like conditions, such as syncope, panic attacks, tics, and migraines, were also excluded (Koutroumanidis et al., 2010). None of the patients enrolled had a history of substance misuse, evidence of dementing processes, a progressive mass lesion in the brain, or a neurodegenerative disorder.

Research variables

We investigated the following characteristics of the study patients: (1) age at the time of examination; (2) sex; (3) family history (first-degree relative) of psychosis (Kitamura et al., 1984); (4) family history (first-degree relative) of epilepsy; (5) intellectual functioning, that is, normal (full-scale IQ [FIQ] ≥85), borderline (70 ≤ FIQ < 85), mental retardation (IQ < 70); (6) age of onset of psychosis; (7) subtype of psychosis (i.e., schizophrenia, schizotypal disorders, delusional disorders, acute and transient psychotic disorders, schizoaffective disorders, and other psychosis), classified in accordance with the ICD10 criteria (although Epilepsy-Psychosis were formally classified as Organic Mental Disorders, psychiatric diagnosis was made with an exception of epilepsy for comparing the two groups) (World Health Organization, 1992); (8) duration of the longest psychotic episode, whether that lasted for 1 month or longer (Bruens, 1974; World Health Organization, 1992); (9) age at onset of epilepsy; (10) time interval between onset of psychosis and that of epilepsy; (11) type of epilepsy (i.e., partial epilepsy [PE], generalized epilepsy [GE], or unclassifiable epilepsy [UE]), determined on the basis of ictal symptoms, electroencephalography, and neuroimaging findings in accordance with the International Classification of Epilepsies (Commission on Classification and Terminology of the International League Against Epilepsy, 1989); and (12) types of seizures, in accordance with the International Seizure Classification (Commission on Classification and Terminology of the International League Against Epilepsy, 1981).

In the Psychosis-Epilepsy patients, further variables were noted: (13) antipsychotic drugs (APDs) at the time of the first seizure, that is, first-generation (typical) APDs (e.g., butyrophenones, phenothiazines, benzamides, and thiepines) and second-generation (atypical) APDs (e.g., serotonin-dopamine antagonists, dibenzothiazepines, and multi-acting receptor-targeted antipsychotics) (Hedges et al., 2003); (14) a history of electroconvulsive treatment (ECT); and (15) a history of febrile seizure.

Procedures

Diagnoses and clinical evaluations were made by consultant neuropsychiatrists qualified in both epileptology and psychiatry. The psychiatric diagnosis was based on standard clinical interviews with any differences resolved by consensus; a formal psychiatric rating scale and structured interview were not used. This study was given approval by the hospitals' ethics committees.

Data analysis

Differences in linear variables were subjected to analysis of variance (ANOVA). Correlations between categorical variables were analyzed with a contingency table analysis, that is, chi-square test or Fisher's exact test. A p-value of <0.05 was considered significant. All statistical analyses were performed with the Statistical Package for Social Sciences (SPSS) version 14.0 (SPSS Inc, Chicago, IL, U.S.A.).

Epilepsia, 52(7):1239–1244, 2011
doi: 10.1111/j.1528-1167.2011.03039.x

Results

Characteristics of all patients

The 312 patients with psychosis and epilepsy were composed of 157 men and 155 women. Age at the examination ranged from 15–72 years [mean 37.0, standard deviation (SD) 12.9]. Age at onset of epilepsy ranged from 0–53 years (mean 13.0, SD 9.4). Age at onset of psychosis ranged from 10–65 years (mean 25.6, SD 9.6). The time interval from the onset of epilepsy to that of psychosis showed a normal distribution curve (mean 12.7 years, SD 10.9, range 33–50, Fig. 1A).

Characteristics of patients with Psychosis-Epilepsy and those with Epilepsy-Psychosis

Main clinical characteristics of the 23 Psychosis-Epilepsy patients and the 289 Epilepsy-Psychosis are shown in Table 1. The other clinical characteristics of the main body of the Epilepsy-Psychosis patients (n = 285) were shown in detail elsewhere (Adachi et al., 2010). Whereas the number of unclassifiable epilepsy diagnoses was significantly greater in Psychosis-Epilepsy patients ($\chi^2 = 8.38$, $p = 0.014$), there was no difference in the distributions of partial and generalized epilepsies between the Psychosis-Epilepsy and the Epilepsy-Psychosis patients ($\chi^2 = 0.10$, $p = 0.760$). The time interval from the onset of epilepsy to that of psychosis in the Epilepsy-Psychosis patients ranged from 0–50 years (mean 14.2, SD 9.3, median 13, mode 10) (Adachi et al., 2010). The time interval from the onset of psychosis to that of epilepsy in the Psychosis-Epilepsy ranged from 1–33 years (mean 8.6, SD 8.6, median 6, mode 1, Fig. 1B).

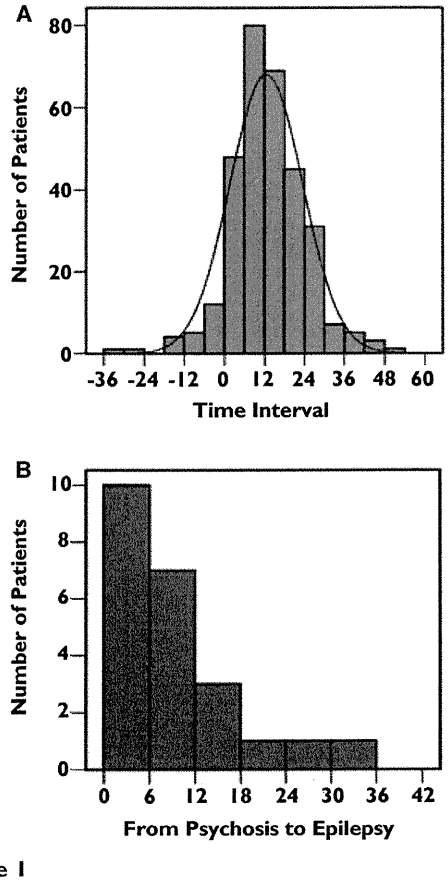


Figure 1
(**A**) The time interval (years) from onset of epilepsy to that of psychosis in both groups showed a continuous bell-curve shape. (**B**) The distribution of time interval (years) from onset of psychosis to that of epilepsy in the patients with Psychosis-Epilepsy was shown.
Epilepsia © ILAE

Additional information of the Psychosis-Epilepsy patients

Subcategories of the 18 schizophrenia patients were hebephrenic in nine, paranoid in eight, and unclassified in one. Three patients had atypical autism (World Health Organization, 1992) prior to the development of psychosis. At the onset of the first seizure, 11 of the 21 patients had taken various combinations of first-generation APDs (six patients were treated mainly with haloperidol, three mainly with phenothiazines, and two with APD unspecified); no patient took any second-generation APDs. Twenty-two patients were on different regimens of APDs between the time of their first and second seizures. The remaining one patient was on the same regimen of APDs (chlorpromazine 75 mg/day and levomepromazine 10 mg/day) when she developed her first and second seizures (complex partial seizures); however, her medication compliance was poor on both occasions. Three patients had conventional ECTs 5–16 (mean 11.0) years before the development of epilepsy. No patients had a distinct seizure-inducing condition preceding the first seizure, for example, central nervous system infection, head trauma, alcohol withdrawal, or overdose. Subcategories of partial epilepsy were temporal lobe epilepsy in six, frontal lobe epilepsy in six, occipital lobe epilepsy in one, and multi- or undetermined-lobular epilepsy in three. Fourteen of the 21 patients had infrequent seizures, with a frequency of less than yearly (total numbers of seizures were 10 or less after the first epileptic seizure). Seven of the 21 patients had febrile seizures in their infancy.

Discussion

Among 312 patients with epilepsy who had a history of ictus-unrelated psychosis, 23 (6.8%) patients had psychosis antedating the development of epilepsy. Our findings are comparable to those in early German studies (Krapf, 1928; Glaus, 1931; Gruhle, 1935) reporting that 8–17% of patients with a history of both epilepsy and psychosis exhibited psychosis first, although the prevalence from their multiple

Table 1. Clinical characteristics in the Psychosis-Epilepsy patients and the Epilepsy-Psychosis patients

	Psychosis-Epilepsy (n = 23)	Epilepsy-Psychosis (n = 289)	Statistics	p
Sex (men/women)	11/12	146/143	0.062	0.832
Age at the examination; mean (SD)	42.6 (13.2)	40.9 (12.9)	0.37	0.544
Family history of psychosis (positive/negative)	2/21	21/264	0.00	0.682
Family history of epilepsy (positive/negative)	3/20	19/266	1.36	0.214
Intellectual functioning (normal/borderline/mental retardation)	13/7/3	143/56/90	3.84	0.164
Age of onset of psychosis; mean (SD)	17.5	26.1 (9.6)	10.1	0.002
Subtype of psychosis (SC/SD/DD/AP/SAD/OTS)	18/0/2/2/1/0	213/7/29/27/5/8	2.06	0.863
The duration of psychotic episodes (>1 month/≤1 month/not available)	21/2/0	247/28/14	1.08	0.703
Age of onset of epilepsy; mean (SD)	28.2 (11.4)	11.8 (8.1)	80.8	0.000
Epilepsy type (GE/PE/UE)	4/16/3	49/236/4	8.38	0.014
[GE/PE]	[4/16]	[49/236]	[0.10]	[0.760]
Seizure type; GTC (exist/absent)	20/3	210/79	2.25	0.216
CPS [PE]	13/3	193/43	1.56	1.000
SPS [PE]	9/7	153/83	0.48	0.591
Other generalized [GE]	1/3	31/17	2.44	0.285

SC, schizophrenia; SD, schizotypal disorders; DD, delusional disorders; AP, acute-transient psychoses; SAD, schizoaffective disorders; OTS, other psychotic disorders; GE, generalized epilepsies; PE, partial epilepsies; UE, unclassifiable epilepsies; GTC, generalized tonic–clonic seizure; CPS, complex partial seizure; SPS, simple partial seizure; other generalized, other generalized seizures (absence, myoclonic, tonic, and so on).

case report approaches might not be totally accurate. Because the prevalence of Psychosis-Epilepsy may be higher than generally thought, it is worth clarifying its clinical characteristics.

When seizures occur in patients who have already been treated for psychosis, APDs (Itil & Soldatos, 1980) and ECT (Rasmussen & Lunde, 2007) can be considered as iatrogenic risk factors for seizures. Whereas seizures in psychotic patients taking APDs are often regarded just as APD-related events recently (Itil & Soldatos, 1980; Hedges et al., 2003), such assumption is not always supported by evidence. Recurrent partial seizures were rarely associated only with an APD-related condition (Devinsky & Pacia, 1994). Approximately 2–3% of patients with schizophrenia exhibited spontaneous convulsive seizures, even in the pre-APD period (Esser, 1938; Yde et al., 1941). Similarly, in terms of possible iatrogenic effects of ECT, several large studies have shown no significant causal association between ECT and newly developed epilepsy (Blackwood et al., 1980; Devinsky & Duchowny, 1983). In the current study, one half of our Psychosis-Epilepsy patients developed their first seizure while not taking an APD. The rest of them were on first-generation APDs, which have a lower risk of inducing seizures than second-generation APDs (Centorrino et al., 2002; Hedges et al., 2003). Most of the Psychosis-Epilepsy patients took different regimens of APDs at the time of their initial and second seizures. Furthermore, three patients exhibited spontaneous partial seizures long after ECT, which were unlikely to be typical ECT-induced phenomenon (Devinsky & Duchowny, 1983). All taken together, the development of seizures in our Psychosis-Epilepsy patients was not fully explained by the adverse effects from APDs and ECT.

Psychiatric characteristics of the Psychosis-Epilepsy patients were similar to those of the Epilepsy-Psychosis patients. Both groups tended to have long-lasting psychoses (Kanemoto et al., 2001). Whereas most of the Psychosis-Epilepsy patients had chronic schizophrenia, the majority of Epilepsy-Psychosis patients also met the ICD10 Schizophrenia Criteria (World Health Organization, 1992), with an exception of the presence of epilepsy. We did not carry out structured interviews for detailed psychopathologies to compare between the two groups in the current study; therefore, we could not depict the psychiatric features in the two groups against those described by Slater et al. (1963) that patients with epileptic psychosis retained emotional responses in comparison to those with schizophrenia. Three patients had atypical autism prior to schizophrenia. Children with autistic spectrum disorders showed increased risk for psychosis and epilepsy (Volkmar & Cohen, 1991; Craddock & Owen, 2010a). The onset of psychosis was earlier in age for Psychosis-Epilepsy patients than for Epilepsy-Psychosis patients. This may be partly due to the study design, as psychosis and epilepsy had already developed at the time of observation. The frequent family history of psychosis in both groups indicated that genetic vulnerability to psychosis was equivalent between them.

Types of epilepsy and seizure were similar between the Psychosis-Epilepsy patients and the Epilepsy-Psychosis patients. The majority of the patients in both groups had partial epilepsy and partial seizures, which indicated the presence of focal brain damage causing self-sustained repeated seizures, as opposed to condition-related events like APD overdose. Genetic predisposition to epilepsy was also equivalent between both groups of patients and comparable to that (9.1%) of our cohort of epilepsy patients without psychosis (Adachi et al., 2002). A history of febrile